

## 大雨の後の技術対策及び台風の接近に備えて

平成26年8月8日  
北海道農政部

### 暴風雨の注意項目

- 1 最新の情報に注意して、天候急変に備えた早めの準備を行う。
- 2 暴風雨の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動をとる。
- 3 飼料、燃料、自家発電装置の点検は風雨が強くなる前に終える。
- 4 風雨が強い場合はむやみに施設等に近づかず、安全の確保を心がける。

北海道は、8月4日～8日にかけて道北を中心に台風から発生した低気圧により、大雨となりました。また、11日頃からは、台風11号の影響による暴風雨の可能性があります。

暴風雨警報は、暴風雨の数時間から2時間程度前に発表されるので、随時発表される気象情報に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

### 第1 8月4日～8日の大雨に係る事後対策

#### 1 共通事項

- (1) 浸水・冠水により地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。大雨により浸水・冠水したほ場では、再度、明渠や排水溝へ排水されているか確認する。
- (2) 農作物については、病害の発生に注意し、好天時に適切な防除を行う。薬剤を使用する際には、ラベルに記載されている適正使用基準や注意事項を遵守するとともに、隣接する作物に薬剤のドリフト（目的外飛散）がないように注意する。
- (3) 降雨後のほ場確認は、なるべく単独で行動せず、道路ののり面やほ場周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、十分注意する。

#### 2 水稲

##### (1) 濁り水が滞水している場合

用水を入れて水田の濁り水を排除し、新根の発生を促す。稲体が水分を失いやすい状態にあるため、田面を急激に乾かさないようにする。木片その他の浮遊物が流入している場合は、速やかに除去する。

## (2) 土砂流入に対する措置

水田に土砂が流入している場合は、可能な限り速やかに土砂等を取り除き、水稻の生育を挽回する。土砂の流入量が多くても湛水に支障が少ない場合は、湛水できる程度に株元の土砂を取り除く。

## (3) 病害防除

冠水した水稻は、病害に対する抵抗力が低下しているため、退水後の発生予察を徹底し、必要に応じて薬剤散布を実施する。

# 3 畑作

## (1) 豆類

大豆・小豆の茎疫病は、滞水条件で多発するので、速やかにほ場表面の排水を行う。湿害を受け、葉が黄化している場合は、窒素肥料の葉面散布により、生育の促進を図る。ただし、軟弱徒長・病害多発が懸念される場合は避ける。

多湿条件下では、豆類の菌核病、灰色かび病、大豆の斑点細菌病、小豆の茎疫病・炭疽病の発病が予想されるので、ほ場を観察し、適期に薬剤散布する。

## (2) てんさい

葉腐病、根腐病、斑点細菌病などの発生に留意し、必要に応じて適期に防除を行う。

## (3) ばれいしょ

軟腐病は、倒伏、折損が認められたほ場を重点的に観察し、初発（小葉の発病）のうちに薬剤散布を行う。

疫病は、気温が低めに推移するとまん延するので、引き続き適切な防除を行う。

## (4) そば

浸水・冠水を受けたほ場は、排水を急ぐとともに、倒伏が見られたほ場にあっても、生育の回復をまって適期に収穫を行う。

# 4 野菜

## (1) 施設野菜

ア 하우스内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去を行う。さらにハウスの開閉をこまめに行い、湿度の低下を図る。

イ 浸水により作物の根傷みが生じ、草勢が低下することが予想されるので、窒素肥料の葉面散布等を適宜行い草勢低下を防ぐ。

ウ 土壌やハウス内の過湿と草勢低下により、灰色かび病、べと病等が発生することが予想されるので、ほ場をよく観察し、適期に薬剤散布を行う。

## (2) たまねぎ

ア 浸水・冠水により軟腐病、りん片腐敗病、灰色腐敗病が発生する恐れがあるので、ほ場の表面排水を急ぎ、ほ場の乾燥後に病害防除を行うとともに、腐敗球をほ場外に搬出する。

イ 収穫前に選別を行い、製品への腐敗球の混入を避ける。収穫後は雨が当たらないようにして、

風通しの良い場所で風乾をしっかりと行う。

### (3) かぼちゃ

果実肥大期～収穫期に浸水・冠水の被害を受けた果実では、果実の熟度により腐敗程度が異なり、幼果・未熟果ほど腐敗しやすく、成熟後期の果実では影響は小さい。

成熟後期の果実に土砂が付着した場合は、収穫直後に水圧水洗した後、キュアリングを十分に行い、腐敗がないことを確認してから出荷する。

### (4) キャベツ

結球後に浸水・冠水の被害を受けると、球が腐敗する可能性が高いが、結球前であれば影響が小さいので、軟腐病、菌核病等の病害防除を徹底する。

## 5 花き

- (1) 浸水等によりなびきや倒伏がみられる場合は、切り花の曲がりを軽減するため、早急に支柱とフラワーネットの固定・調整を行う。
- (2) 茎葉や花茎部に浸水被害を受けたものも回復可能と判断される場合は、汚染部の清水による洗浄や切除・摘み取り、薬剤散布を行う。
- (3) 採花期を迎えた切り花ほ場では、土壌過湿の長期化による品質低下（軟弱化・病害発生）を回避するため、ハウスの通風・換気に努め、土壌乾燥化を促す。
- (4) 被害が軽微で収穫・出荷できる場合は、信用を損なわないよう適切な格付けと検品の徹底に努める。また、品質保持剤の適正使用を心がける。
- (5) 病害虫防除にあたっては、土壌やハウス内の過湿により発生の高まる病害を主体に、早めに薬剤散布を実施する。薬剤散布後ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を適切に使用する。

## 6 果樹

- (1) 倒伏して根が露出している場合は、土盛りや吸湿性のある資材で覆うなど根群の乾燥を防ぐ。倒伏樹は、できるだけ早く根を切らないように徐々に起こし、支柱を立ててしっかりと固定する。
- (2) 折損した枝は切り直し、癒合促進のため、切り口には塗布剤を塗布する。大枝が裂けた場合は、ボルト、かすがい、縄などで傷口を接着する。
- (3) ぶどうのハウスや棚等が破損・倒壊した場合は、速やかに補修する。
- (4) 落葉が著しい場合は、残った葉と着果のバランスがとれるように商品価値の低い果実を主体に摘果を行う。
- (5) 浸水や冠水した園地では、速やかに排水する。土砂の集積が激しい場合は、樹の根元の土砂を取り除く。

## 7 畜産(飼養管理・衛生管理)

- (1) 浸水した畜舎では、速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の乾燥を促進する。伝染病や乳房炎などの慢性病の発生を防ぐため、汚染部分を水洗し、消毒剤や石灰の散布、石灰乳塗布を行う。
- (2) 乾草、サイレージ等の飼料は、泥や雨水による変敗がないことを確認して給与する。

(3) 堆肥や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い河川汚染を防ぐ。

## 8 飼料作物

### (1) 牧草

ア 雨水の浸み込んだロールベール乾草、サイレージ及び冠水したスタックやバンカーサイロは、飼料分析をするなど品質を確認する。

イ サイレージ収穫は、十分に予乾を行うことや添加剤を適切に使用し、収穫を行う。

ウ 大雨の影響を受けたロールベール乾草は、発熱する恐れがあるので必ず点検する。

エ 新播草地などで、冠水により表土が流失して一部が裸地化したほ場は、追播を行う。

### (2) サイレージとうもろこし

大雨により肥料が切れが予測される。肥料切れによる窒素欠乏により、すす紋病や根腐病などの発生が懸念されるので、ほ場観察を行い、必要な防除対策を行う。

## 第2 台風11号の風雨に備えて

### 1 大雨対策

(1) 用・排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い、水の流れを確保し、浸水、冠水の恐れがある水田では、排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。

(2) 風雨が強くなってからの用水路の見回りは行わない。やむを得ない場合でも、夜間や単独での行動はしない。

(3) 低地や排水不良地など滞水が心配される畑地では、明渠や排水溝へ排水できるよう溝を掘っておく。

(4) ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等は、屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどにより施設への浸水を防ぐ。

(5) 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所に移動する。

(6) 堆肥場や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りし、河川等への流出を防ぐ。

### 2 ビニールハウス等園芸施設の暴風雨対策

(1) 栽培を終えたハウスは、ビニール等はずしておく。

(2) 既設の防風網は点検整備を十分に行い、突風がおこりやすい場所には応急的に防風網の設置を行う。

(3) ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。

(4) ハウスの筋かいは、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいは緩むので、ハウス全体の筋かいは均等に締め付けられるように調節する。また、ハウス中央部に支柱を設置し暴風雨に対するハウス強度を高める。

(5) ハウスの出入り口、天窗、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まるかチェックしておく。

(6) ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。

バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張することが難しく、強風でフィルムがバタつくともフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかない

ようにする。

- (7) 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が非常に大きくなり、ハウス全体が大被害を受けるので、飛来物によるハウスの破損がないよう、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- (8) ビニールハウス周辺の排水溝は、ハウスのすき床面より低く掘り下げ、ボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移す。

### 3 水稲

- (1) 排水路等にゴミなどが詰まっていると、再び降雨があった場合に浸水・冠水しやすくなるので、あらかじめ点検・整備を実施する。
- (2) 排水口や溝を点検・補修し、土壌表面水の速やかな排除に努める。
- (3) 浸水・冠水に対する措置として、浸水・冠水したほ場では、畔を切る等、速やかに排水ができるような対策を講じる。冠水した場合でも、速やかに葉先を水面に出すと被害が軽減されるため、一刻も早く稲体を水面上に露出させるようにする。

### 4 果樹

- (1) 気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じる。その際、収穫期に達している樹種(スモモ、プルーン等)は、商品性の高い果実を優先して収穫する。  
ただし、着色が不十分等、収穫期に達していない果実は、収穫を控える。
- (2) 強風で倒木が発生しないように、りんごのわい化栽培では、支柱やトレリスの点検補強を行い、樹をしっかりと固定する。普通栽培では、幹や主枝を支柱や添え木で補強し、倒伏や枝裂けを防ぐ。
- (3) ぶどうでは、棚や垣根の点検補強を行い、ハウス栽培はビニール止め(マイカー線)の点検、被覆資材の破損カ所の補修を行う。収穫中のハウスにおいても強風の場合は、ビニールを破きパイプの保護を行う。
- (4) 各果樹の幼木・若木は、支柱にしっかりと固定し倒伏を防ぐ。

### 5 畜舎等の施設

- (1) 農舎や畜舎などの屋根や壁の点検・修繕を行い、風雨による被害を防止する。
- (2) 浸水の恐れのある牛舎や乾草舎などは、入り口に土のうを積むなど浸水を防ぐ対策を行う。
- (3) 畜舎で保管中の生石灰が浸水で発熱し、火災にならないよう注意する。
- (4) 草地ほ場等のロールベールやラップサイレージは、高く安定した所へ移動する。
- (5) 氾濫する恐れのある河川周辺に放牧している牛は、目の届く放牧地や避難施設などの安全な所に誘導する。

### 6 停電・断水対策

- (1) 常備している懐中電灯の電池残量や、畜舎・施設などの小道具の置き場所を全員が確認し、ま

た、畜舎内の清掃・整頓を徹底し、夜間停電での突発的な人身事故に備える。

特に、畜舎では発電機の手配や、自家発電機の燃料を確認し、試運転を行う。発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配をしておく。

発電装置は必要電力に対し、十分に余裕を持った機材を用いる。発電能力に合わせ、搾乳を最優先事項とし、通電する優先順位を決める。

(2) 酪農施設で停電した場合

ア 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。

また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。

前回搾乳から16時間以内の搾乳中止は、乳量や乳質に特に問題は生じない。

イ 発電装置が手配できる場合は、それらを利用して搾乳・冷却をおこなう。

ウ 発電機が安定した状態で設置されていること、発電機の周囲に可燃物がないことを確認してから、発電を開始する。発電機や電子機器の基盤に急激な負荷を与えないよう、発電機の回転数が安定していることを確認しながら、優先順位に従い、一つずつ機械のスイッチを入れる。

エ 停電で使用不能となる設備(水槽揚水ポンプ、サイロのアンローダー、電気牧柵、自動給餌機、電気温水器、照明器具、自動哺乳装置)を確認し、稼働中に停電した機器や通電後、再稼働の確認が必要な機器については、ブレーカーを落とし、再稼働の優先順位を確認しやすいマークをつける。

オ 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。

また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。

カ 手搾りが可能な酪農家は、泌乳前期牛の搾乳を優先する。

(3) 停電解消後は、次を参考に対策に努める。

ア 通電後は優先順位に従ってブレーカーを戻し、ミルクカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。

イ 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物(通称ブツ)の有無を確認し、罹患している場合は治療する。

ウ 通電忘れがないか、再度確認する。

エ 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。

(4) 停電中にバルククーラーで冷却中であつた生乳は、速やかに集乳できるよう体制を整える。

また、出荷する際には、細菌数の検査を実施する。